

社会人への第一歩 一緒に働こう！

障害者職場開拓における職場実習・雇用受入れ事例集 No.14



船橋市では、障害のある方の一般就労に向けた取り組みの一環として、市内や近隣市の事業所へお伺いし、職場実習の受入れ及び雇用の検討をしていただける事業所の開拓をしています。そして、「市立船橋特別支援学校(→P4※2)」「市立中学校特別支援学級」の生徒を中心に、「障害者就業・生活支援センター(→P3)」や「就労移行支援事業所(→P9※8)」の利用者など、市内在住の障害のある方と、職場実習及び雇用の検討をしていただける事業所の橋渡しを行っています。

令和6年4月に2.5%となった障害者法定雇用率(→P10※9)は、令和8年には2.7%へと引き上げられることが決まっており、社会全体として障害のある方の雇用が推し進められている今、一般就労を希望される方と、雇用したいと考える事業所それぞれへの支援として、さまざまな機関と連携をとりながら、奨励金の支給などの事業を行っています。

この事例集は、就労支援を担当する経済部商工振興課と健康福祉局福祉サービス部障害福祉課が関わる事業所での職場実習・雇用事例をまとめたものです。

職場実習は、障害のある方と事業所が、できることやできないことをお互いに確認できる有効な手段です。「今まで雇用したことがない…」「何に気を付けたらいいのか…」などの不安や疑問に対し、この事例集をご覧ください、参考の一つとしてご活用いただければと考えております。

船 橋 市



障害者雇用推進
キャラクター
はとくん

目 次

事業のご紹介

経済部商工振興課経営労政係／健康福祉局福祉サービス部障害福祉課相談支援係 — P3

障害者職場実習先開拓員が開拓した事業所での実習・雇用事例

佐川急便株式会社 — P4・5

千葉営業所

浦安営業所

NIC グループ — P6・7

NIC リテールズ株式会社 TSUTAYA 津田沼店

NIC リテールズ株式会社 駿河屋 津田沼ビート店

株式会社すばる 流山市立木の図書館

株式会社すばる 流山市立森の図書館

株式会社 oneself サポートハウスまなび — P8

障害者就労支援機関が推薦する事業所での雇用事例

セガサミービジネスサポート株式会社 東京事業所 — P9

タムスグループ — P10

ロイヤル株式会社 東京食品工場 — P11

職場実習先開拓事業について — P12・13

令和6年度船橋市障害者雇用優良事業所「ふなばし♥あったかんぱにー」表彰式を行いました

P14

株式会社東照

株式会社ラダー

社会福祉法人健恒会

株式会社マミーマート 生鮮市場 TOP 船橋日大前店

サッポロビール株式会社 千葉工場

これまでの「ふなばし♥あったかんぱにー」 — P15

障害者職場実習奨励金の支給

市内在住の障害のある方をあっせん者(特別支援学校、障害者就労移行支援事業所等)を通じて職場実習に受入れた場合、ひとり1回につき5日以上の受入れに対し、2万円を交付します。市外事業主も対象になります。

※奨励金の支給には他にも条件があります。詳しくはお問い合わせください。

障害者職場実習先開拓事業

障害のある方の職場実習や雇用について、専任の開拓員が事業所アンケート調査に訪問します。受入れを検討する事業所には、特別支援学校や障害者就業・生活支援センターを紹介し、仕事の切出しから相談してもらえ連携体制を取っています。→詳しくはP12をご覧ください。

障害者雇用優良事業所「ふなばし♥あったかんぱにー」

障害のある方を長年雇用する、職場実習を積極的に受入れる、働きやすい職場環境を整えるなどの努力をしている市内事業所を表彰し、その取組みを広く知らせて参考にしてもらいます。→詳しくはP14・15をご覧ください。

「障害者雇用推進・啓発イベント『はたらく』ということ」

特別支援学校に在籍し就職を目指して実習した方、一般事業所(企業等)で働いている特別支援学校卒業生、そして、障害のある方を雇用している事業所の担当者から、それぞれの体験を聞きます。共に働くことについて、どなたにも知っていただくことのできる機会です。



健康福祉局福祉サービス部障害福祉課相談支援係

TEL 047-436-2343 / FAX 047-433-5566
市ホームページ「障害者 就労」で検索

障害者就労支援ジョブサポーター養成研修

一般事業所(企業等)や福祉施設の職員を対象に、障害のある方の一般就労に対する意識やスキル、連携など初歩的な知識・技術を学ぶための研修を毎年実施しております。障害特性に応じた支援方法や、困難事例の紹介について、企業や支援機関の方からの講義により、障害者雇用についての知識を深めるほか、グループワークを通し、参加者同士の情報交換、交流の場にもなっています。

障害者雇用ハンドブック

障害者就労の分野においては、障害のある方の一般就労を促進するために様々な支援制度・支援機関が設けられています。当市では、事業主の皆様は障害者就労をより深く理解していただくために、事業主を支援する制度や支援機関をまとめたハンドブックを作成しております。(市のホームページからご覧いただくことができます)

船橋市就労移行支援事業所連絡会

船橋市内を主な活動拠点とする就労移行支援事業所(→P9※8)や大久保学園障害者就業・生活支援センターを構成員とする会議体であり、障害者就労を促進するためにさまざまな課題について意見交換・研鑽を行う場です。本冊子の事例の紹介においても、ご協力いただいています。

<<関係機関>>

大久保学園 障害者就業・生活支援センター

障害者就業・生活支援センターは、就職や職場への定着を希望される障害のある方やその家族、また事業主を対象に、就業・生活の両面から支援を行う機関です。

事業主への支援としては、<<これから障害のある方を雇いたい>>→<<初めて障害のある方を雇入れた>>→<<障害のある方を雇用したその後>>と段階的な相談に広く対応し、業務内容の整理に係る提案やジョブコーチ支援等支援(→P11※11)施策の活用等の助言・指導等を行います。



千葉障害者職業センター

ハローワークをはじめとする障害のある方の就労支援を行う機関と連携し、障害のある方、障害のある方を雇入れる事業主を対象に、雇入れの段階から職場定着・職場復帰までを総合的に支援しています。また、地域の就労支援機関に対し、職業リハビリテーションに関する技術的事項の情報提供やアドバイスを行っています。

千葉障害者就業支援キャリアセンター

就業を希望する障害のある方やその家族、障害のある方を雇用するまたは雇用を検討している事業主からの相談に応じて助言・指導を行い、必要に応じてセンターにおける職業準備訓練やジョブコーチ支援等を実施します。

佐川急便株式会社

佐川急便株式会社は昭和 32 年創業、現在は、京都府京都市に本社、東京都江東区に東京本社を構えています。従業員は 5 万 2,000 人を超える大企業です。北海道から沖縄、そして海外にも拠点を有し、宅配便などの輸送事業をしています。

佐川急便株式会社含む SG ホールディングスグループでは、DE&I(※1)の推進に取り組んでおり、「性別や年齢、障害の有無、国籍に分け隔てなく、すべての多様な人材がいきいきと働ける職場環境」を目指しています。グループ全体で、特別支援学校(※2)からの職場実習の受入れや新規雇用、定着に力を入れています。

船橋市内にあるふたつの営業所でも、職場実習やその後の雇用を行っています。



千葉営業所 (船橋市潮見町)



大切な荷物を丁寧に扱う

令和 3 年に特別支援学校を卒業し、千葉営業所で働いている池田翔吾さん。月～金曜日の 9～18 時が勤務時間です。「仕事は、到着した荷物を宛先の都道府県別に分けることです」と教えてくれました。「重い荷物も多いので、体に負担がかからない持ち上げ方を教えてもらいましたが、コツをつかむまで苦労しました。お客さんの荷物なので壊さないよう、丁寧に扱っています」。

体力には自信がありますが、コミュニケーションを取るのが苦手。「でも、職場は優しい人ばかりなので、わからないことを聞けばすぐに教えてくれます」(池田さん)。

「これからは、協力会社のシステムをパソコンで確認することに慣れたい」そうです。

努力することで成長していく

池田さんは在学中に数回、この営業所で職場実習をしました。その頃の様子も知っている安全推進課課長の武藤浩司さんと宅配管理課係長の一山佳史さんは、「入社してからとても成長しました。仕事に慣れ、一緒に働く仲間も『どこが“障害”なの?』と言うくらいテキパキ働いています。向上心があり、システムの扱い方も自分から聞いてくれます」と話します。

営業所では、他にも数人、障害のある方が働いています。「特性は人それぞれなので、その人に合わせた指示の出し方をしています」(一山さん)。

後輩の職場実習を指導する

池田さんが卒業した学校からは、今年度、後輩 A さんが春と秋の 2 回、職場実習にやって来ました。

業 種		運輸業
実 習 生	実 習 期 間	特別支援学校高等部 3 年生
	実 習 期 間	秋・冬各 2 週間
	実 習 内 容	荷物の仕分けなど
就 業 経 歴	経 歴	特別支援学校高等部卒
	採 用 年 月	令和 3 年 4 月
労 働 仕 事 内 容	仕 事 内 容	荷物の仕分け

「A さんには、最初は私が荷物の仕分け、在庫管理を教えました。そのあとは池田さんに『教えてね』と頼みました」(一山さん)。池田さんは在学中に A さんと会ったことはないそうですが、「自分も最初は、営業所の『地域番号』を覚えるのが大変でしたが、A さんも苦戦していました。ベルトコンベアーに流れる荷物の番号を素早く読み取るよう教えました。2 回目の実習では仕事の内容を覚えていて、心強かったです。A さんから話しかけてくれたり、わからないところは聞いてくれたりしました」(池田さん)。

一山さんは、「池田さんが A さんの面倒をみることで、周りも A さんとの接し方を知ることができ、安心していたようです」と、効果を語ります。

相手を認めて同じように接する

障害のある方たちと働いた経験が多い武藤さんは、「『多様性』とは、相手を認めて同じように接することだと思います。障害がある方だと構える必要はなく、こちらが普通に接すれば相手も普通に受けてくれます。いろいろ考え過ぎず、積極的に話しかけるのが良いと思います。考え過ぎると壁ができることにもなります」と言います。

「これまでここで働いていた人で『自分は障害者だから』とネガティブになっていた人はいなかったと思います。働くための努力もしている。だから私たちも『障害のある方だから』とは構えないのです」と、一山さんも話してくれました。

「そういう意味からも、本人がこの環境に合うか、ポジティブに働くことができるかを確認することができる職場実習は、効果があると思います」(一山さん)。



安全推進課課長 武藤浩司さん(左)、
宅配管理課係長 一山佳史さん

浦安営業所 (船橋市西浦)



特別支援学校卒業生を採用

浦安営業所では、令和4年に特別支援学校を卒業して採用された数浦直弥さんが働いています。

「トラックから荷物を下ろしたり積み込んだりする手伝いを主にしています。仕事のやり方は難しかったけれど、みんなに教えてもらって、覚えました」と言う数浦さんに、安全推進課係長の加納宏尚さんは、「正義感が強く、仕事に一生懸命なので助かっています」と言います。

むしろ仕事に過集中する傾向があり、タイヤやダンベルなど重い荷物が多い日に無理をしがちなので、「休憩したらどう？」などと声をかけています。

目標をクリアすることでクオリティアップ

加納さんは数浦さんに目標を立ててもらい、できないことにもチャレンジする機会を作っています。今の目標は「荷物をまっすぐに置く」こと。ベルトコンベアーに荷物を置く際、営業所番号を確認することができるようまっすぐにします。

このように、小さな目標をひとつずつ達成することで、確実に仕事のクオリティが上がっています。

数浦さんは、言葉などでコミュニケーションを取るのが難しいタイプの方ですが、毎日様子を見て声を掛けるようにしています。以前は出勤手続きを間違えてエラーが出ることもありましたが、出勤時に顔を合わせたら声をかけて手順の確認をするようにしたところ、今ではミスがなくなりました。

このように、できるだけコミュニケーションを取ることで、勤怠の手続きだけでなく労災防止などのルールを繰り返し教え、遵守できるようにしています。



「安全」のためのルールを繰り返し教える

ただ、集中して仕事をするのと同時に、自分の興味があることにも一心になる傾向があります。例えば「荷物をまっす

業 種		運輸業
実 習	実 習 生	特別支援学校高等部3年生
	実 習 期 間	秋・冬各2週間
	実 習 内 容	荷物の仕分けなど
就 業	経 歴	特別支援学校高等部卒
	採 用 年 月	令和4年4月
労	仕 事 内 容	荷物の仕分けなど

ぐに置く」ルールが身に付いてくると、ゆがんでいる荷物を見つけて一目散に走って直しに行ってしまう。加納さんから職場の仲間は都度引き止めて、「走ってはいけない」と繰り返し教えています。

また、わからないことや困ったことがあっても、数浦さんから相談することはほとんどないため、様子を見て声をかけるようにしています。「この職場で一番大事なことは『安全』です。そのために会社の秩序、ルールがあります。障害の有無に関わらず、個性や特性を正しく理解し、営業所内でその情報を共有することで、本人にもルールを理解して安全に働いてもらうことができるよう工夫しています」(加納さん)。

会話を交わしたりコミュニケーションを取ったりすることが難しくはありますが、「数浦さんはちょっとしたアイドル的な存在でもあって、グループ会社のバスで通勤する仲間の人気者です。『かすくん』とかわいがられています」(加納さん)。

後輩が入ったら「末っ子」卒業

浦安営業所にも、今年度は数浦さんの後輩Bさんが職場実習に来ました。荷物の仕分けや伝票整理など、いろいろな作業を体験しました。わからないことはスタッフに自分から聞き、「仕事は楽しかった」と振り返りました。

「Bさんは人の輪に入るのが苦にならず、順応性がある方です。数浦さんとは特性が違うため、いくつかの仕事をやってみて様子を見ました」(加納さん)。

今回、Bさんが数浦さんと同じチームで作業をしても仕事を教わる機会はありませんでした。加納さんは数浦さんの次の目標(課題)として、「今は営業所の『末っ子』ですが、後輩が入ってきたら先輩として接してくれるようになるといいですね」と言います。



NIC グループ

NIC グループは、書籍・文具・玩具、トレーディングカードなどの小売り事業(NIC リテールズ株式会社(本社:東京都文京区))、小売り事業のコンサルティング(NIC パートナース株式会社(本社:東京都文京区))、そして図書館の指定管理事業(株式会社すばる(本社:千葉県鎌ヶ谷市))など、多方面で多彩に事業展開をしています。

障害者雇用に入力し始めたのは、今から 10 年近く前。地域の特別支援学校やハローワークなどと連携をし、職場実習からスタートしました。卒業後にグループ会社の様々な現場で働くようになった方もいて、グループでは長期的な雇用にするため、スタッフの理解促進に努めています。

NIC リテールズ株式会社 TSUTAYA 津田沼店 (習志野市谷津) ※令和 7 年 3 月 30 日閉店



得意不得意をあらかじめ聞いて参考にする

TSUTAYA 津田沼店は、書籍販売、音楽・映像ソフトの買取り販売、レンタルをしている店舗です。

今回、書店での仕事に興味がある特別支援学校 1 年生 C さんが実習をしました。これまで、高齢者介護施設で半日の実習(デュアル実習=※3)をしたことはありますが、10 日間の実習は初めてです。

雑誌の付録づけ、返却されたレンタルコミックの棚戻し、

業 種	書籍、音楽・映像ソフト等の販売、レンタル
実 習 生	特別支援学校高等部 1 年生
実 習 期 間	2 週間
主な実習内容	雑誌の付録づけ、返却本の戻しなど

買取ったトレーディングカードの仕分けなどを経験しました。「1 週間程で仕事には慣れました。お客様から声を掛けられたので、他のスタッフにつなぐことができました」と C さんは嬉しそうです。

実習前の面談で、C さんが細かい作業が得意だということを知り、店長の佐藤真之さんが手本を見せて指示をすると、その通りに作業をすることができました。また、「読み書きが苦手だと言っていました、コミックのタイトルを読んで棚に戻してもらったところ、問題なくできました」(佐藤さん)。

佐藤さんも他のスタッフも、一緒に作業をする時に話しかけ、緊張しないように気を配りました。「また機会があれば障害のある方と働きたい」と、佐藤さんは振り返ります。



TSUTAYA 津田沼店店長
佐藤真之さん

NIC リテールズ株式会社 駿河屋 津田沼ビート店 (船橋市前原西)



働くことが楽しいと知ってもらいたい

玩具の買取り・販売をする駿河屋 津田沼ビート店でも、特別支援学校 1 年生の D さんが実習をしました。体験したのは、商品の袋詰め、値付け、品出しです。

「ずっと立っているのは初めてなので、最初は疲れました。でも、アニメのキーホルダーなど好きな物や知らなかったグ

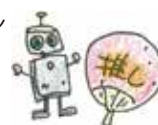
業 種	玩具買取り・販売
実 習 生	特別支援学校高等部 1 年生
実 習 期 間	2 週間
主な実習内容	商品の袋詰め、値付け、品出しなど

ッズに出会えるので、毎日ワクワクしています」と言う D さんは、「丁寧に仕事を教えてもらえるので、手順がよくわかります」と話してくれました。

店長の近藤 淳さんは、別の店舗で障害のある方と共に働いた経験があります。「D さんはコミュニケーション能力に問題はなく、わからないことを他のスタッフに聞くことができます。D さんには、好きだというフィギュアの整理を頼みました。働くことを楽しんでもらいたいですね」(近藤さん)。



駿河屋津田沼ビート店
店長 近藤 淳さん



株式会社すばる 流山市立木の図書館 (流山市名都借)



実習生の素直さで初心に帰る

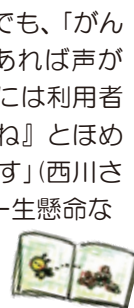
株式会社すばるでは、鎌ケ谷市立図書館で業務委託、流山市立図書館で指定管理を受けています。

流山市立木の図書館では、複数の特別支援学校から職場実習を受け入れており、今年度は2年生Eさんが来ました。「特別支援学校でも他の実習生でも、接客(図書の貸出し、返却)、配架、修理の仕事を体験した後、その中でやってみたいと思

業 種	公立図書館指定管理受託
実 習 生	特別支援学校高等部2年生
実 習 期 間	2週間
主な実習内容	接客(図書の貸出し、返却)、配架など

った仕事を主にやってもらいます。接客が苦手な方でも、最終的には『やりたい』と言うケースが多いです」と言うのは、職員の西川久爾江さん。大菅知春さん、中井くみ代さんと3人で実習生の指導をしました。「障害があってもそれほど心配なことはないのですが、体調面には気を遣い『具合が悪かったら言ってね』とお願いします」(大菅さん)。

恥ずかしがり屋の方でも、「がんばろう」という意識があれば声が出るようになり、終盤には利用者から『がんばっているね』とほめてもらうこともあります」(西川さん)。「実習生が素直で一生懸命なので、私たちも初心に帰ります」(大菅さん)。



株式会社すばる 流山市立森の図書館 (流山市東深井)



コミュニケーションが苦手でも得意はある

特別支援学校卒業から約5年、流山市立森の図書館で働いている名嘉山 葵さんは、返却本の配架を中心に従事しています。市内の図書館から戻った本の仕分け、予約本の準備など、他の職員と組んで行います。手先が器用で、在学中に実習で来た時から、本の修理やビニールコーティングもしていました。

業 種	公立図書館指定管理受託
経 歴	特別支援学校高等部卒
採 用 年 月	令和2年4月
仕 事 内 容	返却本の配架、イベント準備など

就職後は、イベントの準備もするようになり、印刷物の用意や子供用の工作キットの準備などを行います。自分からコミュニケーションを取るのが苦手な方ですが、職員が気持ちを察することができるようになりました。

館長の川島威史さんは、学生の頃の名嘉山さんも知っています。「会話は成立しづらくても、仕事の理解はしているし、考えていることもなんとなくわかるようになりました。彼を採用してから、他の指定管理施設でも実習など受入れが進みました」(川島さん)。森の図書館でも、今後も実習を受入れていきたいと考えています。



流山市立森の図書館
館長 川島威史さん



労務グループ
佐藤正博さん

NIC グループの障害者雇用管理を行っているのは、NIC 株式会社 リテールコンサルティング本部労務グループの佐藤正博さんです。「当初は、各校と個別に連絡を取りながら対応していましたが、現在は千葉県内の特別支援学校の『窓口校制度(※4)』があり、ネットワークを活用して千葉県内の多くの生徒からエントリーをしてもらえるようになりました」。

実習受入れができる店舗を増やし、毎年10人前後、特別支援学校からの職場実習を受入れています。「実習生にとって実習は学びの場であり、自信を持って社会とのつながりを実感する貴重な機会です。スタッフ一同でサポートし、安心して実習に臨み成長できる場を提供したい」と佐藤さん。「受入れることで障害のある方と関わったスタッフの障害に対する理解が深まっていきます。社会貢献の一環としても、障害のある方との関わりは大きな意義を持っていると感じます」(佐藤さん)。



※4 千葉県内の特別支援学校間就労支援ネットワークにおいて、就職先開拓の情報共有と有効活用を目的として、代表校が県内特別支援学校の希望をまとめ、事業所(企業等)と交渉をする窓口になる仕組み



前法人から事業を引継ぎ

株式会社 oneself (船橋市二和西)は、視覚に障害がある方の支援を目的に、令和2年に設立されました。現在、視覚障害者向けにグループホーム「ease」3棟(船橋市二和東に2棟、同西習志野に1棟)、就労継続支援B型事業所(※5)「rubato」(船橋市二和東)、同行援護事業所(※6)「join」(船橋市二和西)を運営しています。

地域密着型通所介護・介護予防通所型サービスを提供する「サポートハウスまなび」は、以前は別の法人が経営していたものを、令和5年6月に株式会社 oneself が引継いで運営しています。

代表取締役の飯田大介さんは、「視覚障害者向けグループホームを運営する中で、将来的に利用者さんたちが入居する高齢者住宅を作りたいと考え始めていたところ、サポートハウスまなびを引継ぐ話をいただきました。高齢者福祉サービスに参入するいい機会でした」と振り返ります。

「サポートハウスまなび」で働いていたスタッフは、施設長の飯田直子さんを始め、継続してここで働いています。「提供するサービス内容も変えず、利用者さんに安心して通ってもらえるようにしています」(飯田直子さん)。施設の前にある畑を再開し、サポートハウスまなびや他の施設の利用者が一緒にさつま芋などを収穫しています。

採用を見据えて実践的な内容で実習

サポートハウスまなびの利用者は定員18人で、毎日8～10人のスタッフが利用者の対応をしています。

以前から何度か、特別支援学校の生徒を職場実習として受け入れていました。法人が変わっても、体験や雇用前提での実習は受ける方針であり、今年度も高等部3年生Fさんが実習をしました。Fさんは2年生の後期にもここで実習をしています。

Fさんは「高齢者とお話をするのが好き」とデイサービスでの実習を希望し、柔らかい物腰で、指示されたことをてきぱきとこなしていました。飯田直子さんは、「2年生の時は、何をお願いできるか試しながらやってもらいましたが、



業 種	高齢者デイサービス
実 習 生	特別支援学校高等部3年生
実 習 期 間	春・秋各2週間
主な実習内容	介護職員補助

今回は採用を見据えて、より実践的な仕事を試しました」と話します。

利用者の名前も覚えており、利用者からもかわいがられていました。レクリエーションに加わってもらくと、本気でゲームに参加する様子も、好評でした。



介護研修費用を会社で負担

実習にあたって、飯田直子さんはFさんに他のスタッフと同じ「一日のスケジュール」と「業務内容」の資料を渡しました。その中でFさんにサポートしてもらいたい部分をわかりやすく示し、デイサービス全体の流れの中で自分がどんな役割を担っているか、なんとなくでも理解してもらえるようにしました。

また、飯田大介さんは、Fさんが利用者の食事の準備やトイレ付添いなど一生懸命に取り組む姿を見て、「eラーニングで受けられる『認知症介護基礎研修』を勧めました。介護施設で働くために必要な資格で、修了すれば利用者様の身体的サポートもできるため、やってもらえる仕事が増えます。もし他の施設に就職するのも役に立ちます」。Fさんの将来に役立つよう、研修費用は会社で負担しました。

Fさんは研修を修了し、3年生後期の実習を経て、ここでの就職を希望しました。研修のおかげで、実習担当と共に利用者の移動に手を添えたりトイレに付き添ったりすることができるようになりました。

介護業界の働き手として期待

飯田直子さんはFさんについて、「仕事に意欲的で自然に人との交流ができる。ここはチームで働く現場なので、それが重要です」と評価しています。「初回は緊張で不安になり、泣いてしまいましたが、休憩で気持ちを切り替えてがんばってくれました。常に『なぜそうするのか』を理解した上で仕事ができるよう気を配りました。また、認知症の利用者様もいるので、『否定をせず話をしっかり聞く』ようお願いしたところ、ちゃんと利用者様の話を聞く姿勢ができるようになりました」。

利用者はFさんに話しかけたり、「次はこの仕事をやるんだね」と教えてくれたりして、Fさんをスタッフとして受け入れています。実習の最終日には、寂しくて泣き出す利用者もいました。

「介護業界の働き手として、Fさんのような真面目な方は貴重です。今後も実習受入や採用を積極的に考えていきます」と、飯田大介さんは話しています。



代表取締役 飯田大介さん(左)、施設長 飯田直子さん



総合エンタテインメント企業の特例子会社

セガサミービジネスサポート株式会社は、幅広いエンタテインメント事業を展開するグループ会社を持つセガサミーホールディングス株式会社の特例子会社(※7)として平成27年に設立されました(親会社以外の5社＝株式会社セガ、株式会社ダーツライブ、サミー株式会社、株式会社アトラス、株式会社セガ フェイブはグループ適用)。本社・東京事業所は東京都品川区、他に宮崎県宮崎市に宮崎事業所があります。

東京事業所は令和2年の開設で、知的障害のある方がオフィスクリーニングチーム、精神障害のある方がオフィスアシスタントチームに所属して働いています。

見学と実習で納得してから働く

「主に就労移行支援事業所(※8)や特別支援学校に通う方で希望があれば、まず会社を見学してもらい、面談を経て実習に移ります。大事なのは本人の意志で、入社してから『こんなはずではなかった』とってしまうのは不幸なことです」と話すのは、管理部担当課長の加畑雅子さんです。「本人が納得して『この会社に貢献したい』と思い、会社も『定年まで勤めてもらいたい』と思った方を採用したいですね(加畑さん)。



スタッフは、チームを組んで、ビルの2階から13階までを日替わりで清掃します。「様々なグループ会社が入っているので、グループが手掛けている事業の幅広さを感じながら、自分たちもその一員であることを実感できます」と加畑さん。「それぞれのフロアには2週間に1回作業に訪れることになります。グループ会社にもスタッフが清掃に入ることは伝えてあり、そのための準備をして待っている会社もあります。スタッフは『ありがとう』と言ってもらえることがモチベーションアップにつながっているようです」。

「能力開発」の時間を取る

「清掃エリアのコンセプトによって、清掃時に着用するユニフォームやエプロンの色も変えてもらいます」と説明してくれるのは、指導員リーダーの高柳裕子さんです。東京事業所に就職して1年になる豎山広大さんは、前日にスケジュール表を確認してユニフォームを準備し、当日は清掃場所を確認して清掃道具を準備します。清掃する場所によって床がじ

業 種	清掃、事務補助、クリーニング(特例子会社)
従業員数/障害者数	23人 / 18人
障 害 種 別	精神、知的
主な仕事内容	クリーニング、清掃など

ゆうたんだりリノリウムだったりするので、必要な清掃道具が変わるからです。

「人間関係がうまくいか不安でしたが、仕事を丁寧に教えてもらえるので安心しました。家から遠いので通勤はちょっと大変ですが、大好きなゲーム『ぷよぷよ』を作った会社で働くことができてうれしいです」と、豎山さんは話してくれました。

セガサミービジネスサポートでは、毎日30分、「能力開発」の時間を作り、それぞれが選んだプログラムに日替わりで取り組んでもらっています。

内容は様々で、100マス計算や漢字、パソコン入力といった基礎学力だけでなく、グループ会社のエンタテインメントを利用したダーツなどで体幹を鍛える人もいます。「好きなことだけではなく苦手なことも学び続ける」のが会社の方針ですが、期の初めに取り組むものを本人に決めてもらい、「自立するために必要なことを学ぶ」時間にしています。



自己理解と会社の理解

「新たなことにチャレンジする時には、それが何のために必要かを伝えていきます(高柳さん)。そして、月ごとに『将来の業務に役立てたいこと』から目標を設定し、日報で自己評価してもらいます。「長く勤める方はステップアップし、チームリーダーを目指してもらえるようにしています」。

また、隔週で指導員が面談をし業務に関して話し合うほか、生活面は3ヶ月ごとのジョブコーチ面談、その他、健康面や服薬については、グループの健康管理センターでもフォローしています。

「セガサミービジネスサポートは特例子会社ですので、事業会社では受け入れが難しい方も採用していますが、グループ各社でも障害のある方がたくさん活躍しています。親会社の人事部の立場では採用活動や採用した方のサポートに悩んでいるグループ会社の相談に乗ったり、障害のある方を入れるために必要な知識を共有したりすることで、障害のある方が当たり前のように働けるようなグループにしたいと思っています」と加畑さんは力強く話してくれました。

推薦者より

「自立」のために様々なことに挑戦する機会があります



指導員リーダー 高柳裕子さん(左)、
管理部担当課長 加畑雅子さん



医療・福祉関係法人のグループ

タムス(tums)グループは、5つの医療法人社団(桐和会、だいたい、城東桐和会、さくら、有相会)と2つの社会福祉法人(桐和会、春和会)で構成されるグループです。東京都、千葉県、埼玉県で、病院を始めとする医療施設、介護施設(特別養護老人ホームや介護老人保健施設)、保育施設を81ヶ所運営しています。

各施設では資格専門職や事務職などを雇用していますが、グループの採用人事や給与事務などは管理本部で行っており、本部では各法人で担当が分かれて業務をしています。

4年前、障害のある方の採用に本腰

グループで障害のある方の採用に本格的に取り組むことになったのは令和2年のことでした。「それ以前にも就労支援機関などから紹介された方の受入れはしていましたが、法人の体制が変わって雇用人数が増えたこと、医療福祉に力を入れる方針になったことから、障害者法定雇用率(※9)達成のために本腰を入れて取り組むことになりました」と振り返るのは、管理本部人事部人材活躍推進課 兼 キャリアコンサルティングチームマネージャーの甲田 基さんです。「既に何人かの障害のある方を雇用していたので、障害があっても働けることはわかっていましたし、実は障害者手帳を取得していたという職員がいて『既に障害のある方と一緒に働いていた』とわかり、スタートの後押しになりました」。

そこで、管理本部に人材活躍推進チームを発足させ、人事採用部署との兼務だけでなく専任の担当者も立てました。その後、採用に加えて定着も視野に入れ、甲田さんと、管理本部人事部人材活躍推進課主任として服部亜矢子さんが就労移行支援事業所から入職しました。

得意なことを仕事にする

齋藤直樹さんは、タムスグループ管理本部で働いて1年になります。大学で情報工学を学び、パソコンの扱いは得意です。「パソコン作業は、ある程度自分の判断でできる部分があるのが魅力です」と言います。

管理本部では、「社会福祉法人春和会」を担当。人事システム「COMPANY」を使い、各拠点から依頼される課題を解決しています。また、給与計算に関する事務もこなします。「仕

業 種	医療法人社団・社会福祉法人の管理グループ
従業員数/障害者数	5,828人/90人
障 害 種 別	精神、知的、身体
主な仕事内容	グループ内の事務

事の正確性を追求し、部署内の作業を効率化したい」と意欲的です。齋藤さんは、最初は独学で身に付けた自分のスキルが不足しているのではないかと不安を持っていましたが、「職場の人に気軽に質問でき、サポートがもらえる雰囲気嬉しい」と言います。また、合理的配慮を求めて電話対応をしなくて済むようになったことも齋藤さんの安心材料です。

長く働いてもらうための工夫

甲田さんたちは、令和5年には人材活躍推進チーム内に業務推進チーム「タムスアルファ」を開設。「就労移行支援事業所で訓練をしており『自分にはどんな仕事に向いているのか』悩んでいる方を雇用し、全施設を巡回して職員のすき間仕事を経験してもらい、最終的に合う施設で雇用する取組みを始めました」(甲田さん)

「タムスアルファでは、各施設からの仕事の依頼を受けチームのメンバーと車で巡回します。病院では事務雑務や病室のシーツ交換、老人ホームでは居室のシーツ交換や清掃などです」(甲田さん)。

以前は、就労移行支援事業所に講師になってもらい、職員向けの障害者雇用に関する講習をしてもらったこともあります。また、特別養護老人ホームに障害のある方が入居されることになり、対応講習のための資料を作るなど、人材活躍推進チームでは障害のある方の理解促進に努めています。

また、新しい施設ができると、障害のある方と働いた経験のある方が施設長になり、月1回開かれる施設長会議では、事例の発表も行われます。

採用後の定着サポートとしては、就労移行支援事業所から採用した方の定着面談(月1回)には同席し、それ以外にも本人の希望があれば施設を訪問して面談を行います。「現場の職員に負担をかけないように、人材活躍推進チームが現場で業務指導をします」。

「『働きたいがすぐには難しい』方をタムスアルファで採用し、長く働くことができるように育成します」(服部さん)。「そのためには、生活面の支援もします。勤続3年で定着支援が終わった後から、家庭などいろいろな問題が出てくることがあります。そんなときのためにグループホームを案内することも。働く上で『生活』は大事です」(甲田さん)。

推薦者より



未経験ながら採用された方が、合理的配慮によりスキルを伸ばしています。



管理本部人事部人材活躍推進課 兼 キャリアコンサルティングチームマネージャー
甲田 基さん(右)、
同本部人事部人材活躍推進課主任
服部亜矢子さん



昭和 58 年設立の食品工場

ロイヤル株式会社(本社:福岡県福岡市)は、ロイヤルホールディングス株式会社(東京本部:東京都世田谷区)のグループ会社で、福岡市にセントラルキッチン工場とベーカリー工場、船橋市に東京食品工場を有する食品製造会社です。

東京食品工場は、ファミリーレストラン「ロイヤルホスト」の食材安定供給を目的に昭和 58 年に設立されました。現在では、東京セントラルキッチン(ソース、カレー、スープなど)、ミルヒホフ(冷凍ケーキなど=令和 7 年閉鎖予定)、ドレッシング(ドレッシング、ハーブソースなど)、パン(焼成冷凍パン、冷凍生地など)を含む巨大工場です。

長く働く障害のある方が多い

東京食品工場では、35 年程前から障害のある方の雇用を始めました。「親会社の人事部と協力し、グループ全体で雇用を進めているため、東京食品工場単体では希望者があれば受ける形です」と、東京食品工場 管理課課長 石井大佐さんは言います。これまで、2~3 年で退職する方があったり、働いている中で障害者手帳を取得していることがわかったりした方などありましたが、現在では重度(※10)知的障害のある方も含め、障害のある方が 5 人、ほとんどが製造現場で働いています。

中でも一番長く働いている G さんは、中学校卒業と同時に入社し、30 年以上になります。冷凍スープやカレーの製造部署にいましたが、数年前、人間関係のトラブルを起こしてしまったのでした。

人間関係のトラブルから支援を求める

G さんが就職した頃には支援機関などの整備がまだ十分ではなく、これまでは会社と本人(家族)と連絡を取りながら雇用を進めてきました。しかし、トラブルをきっかけに G さんの今後の雇用に悩んだ石井さんと、東京 BKY 製造課係長の時津信之さんは、圏域の障害者就業・生活支援センターに相談をしました。

相談を受けた障害者就業・生活支援センターでは、G さんの話とトラブルの状況を聞取りました。G さんと家族が「部署が変わってもこの会社で働かせてもらいたい」と希望したことから、本社の人事担当者が「長年働いてくれたので、

業 種	食品製造
従業員数/障害者数	250 人 / 5 人
障 害 種 別	知的その他
主な仕事内容	食品製造、清掃など

もう一度チャンスを与えよう」と決めました。

そこで冷凍ケーキの製造部署に移ってもらうことにしたのですが、石井さんたちは「これまで経験がない部署にうまく馴染むことができるだろうか」と不安も拭きませんでした。

そこで就業・生活支援センターの支援員からジョブコーチ支援(※11)を提案され、1 年半の支援を受けました。

その結果、製造ラインだけでは集中力が続かないことが分かり、清掃の仕事も組み合わせることになりました。ジョブコーチの助言で、工場の配置図と使う道具を示し、手本を見せながら仕事を教えました。「写真やスケジュール表を使い、分かりやすい表現で、視覚で理解しやすい指示書を掲示しました。また、スケジュール表には作業内容も書き入れ、終わったらチェックを入れてもらいました。そして、『ここの掃除が終わったね、きれいだね、ありがとう』などとほめるようにしました」(時津さん)。



清掃を頼んでいるのは、機械と、通路や階段などの共有部分です。「スケジュールは 1 週間で項目を立てており、取り掛かる順番は G さんに任せています。終わったらチェックしてもらいます。自分の仕事にあまり口出しをされたくないようなので、朝夕の報告などはなしにしました。ルーティン作業以外のそれほど頻繁ではない場所は、その週に終わらなくても、理由を聞いて『来週お願いします』と言っています」。

今後の働き方や生活を考える

ひとりで言う作業で気が楽なのか、もともときれいな好きな G さんは、時間はかかりますが少しずつ習熟しています。また、自分でホームセンターに行って工具を買ってくるなど、作業に工夫をする様子もあります。

「G さんには、時々ケーキの製造ラインに入ってもらいます。この作業が好きなようなので『ごほうび』ですね」(石井さん)。

重度知的障害のある方は、G さんを含めて 3 人です。「年齢が上がって体力が落ちるなどしたら、別の作業に当たってもらうことも考えられます。また、保護者が高齢なのでこれからの生活が心配です。支援に入ってもらった就業・生活支援センターには、こういったことも相談したいと思っています」(石井さん)。

推薦者より



働き続けるために、支援機関の助言を受けながら工夫してくれそうです



東京食品工場
東京 BKY 製造課係長
時津信之さん



職場実習先開拓事業



障害のある方と働く前に「職場実習」を

職場実習には、働きたい方と雇用したい事業所（企業等）、双方にさまざまなメリットがあると考えられます。

障害のある方にとって、イメージだけではなく実際に経験することは、「働く」ことへの理解や自信につながり、自分に合った仕事を見つける手助けにもなります。一方、企業などの事業所にとっては、障害のある方を知る、共に働く経験になります。

「障害のある方」と言っても、障害の種別や程度、得意なこと・苦手なことも人それぞれです。融通を利かせたりコミュニケーションを取りながら技術を身に付けたりすることが苦手な場合がありますが、逆に集中力を持って仕事に取り組んだり、他の従業員とは違う視点から物事を見たりすることもあります。

障害のある方と事業所のマッチングがうまくいかなければ、一緒に働き続けることは困難です。そのために、職場実習は必要な機会だと考えています。お互いが「働く」ことを知るための体験、実際に共に働く可能性の見極めなど、職場実習にもいろいろな意味合いがあります。

そういった機会を作るため、まずは職場実習の受入れをお願いしています。

開拓事業の流れ

1 開拓員の訪問からスタート

職場実習先開拓員が事業所（企業など）を訪問し、障害のある方と働くことについての事業所の考えを聞き取ります。また、可能であれば職場の見学をします。

開拓員からは、市の職場実習奨励金や国の助成金に関するご案内をします。

様々な業種での職場実習や雇用の例をお話しすることができますので、「まずは話だけでも聞いてみよう」でも「全く想像がつかない」でも構いませんので、訪問にご協力ください。

こんにちは
職場実習先開拓員です



2 障害のある方をサポートする機関に紹介

開拓員の話聞いて、「障害のある方の受入れについて、もう少し詳しく内容を知りたい」と考える事業所には、一般就労を目指す方が通う学校（特別支援学校）の教諭や、就労支援機関の支援員を紹介します。

障害種別や特性の一般的な知識、障害のある方に向く作業の切出しなども相談することができます。不安や疑問を解消するチャンスです。



3 職場実習を希望する生徒や利用者の面接

特別支援学校の生徒や就労支援機関の利用者から、「この職場で働いてみたい」「この作業をしてみたい」という希望があった時には、担当者（教諭や支援員）から事業所に連絡をし、職場実習について改めて相談をします。受入れが可能であれば、より具体的に日程や作業内容の打合せに移ります。



また、実習希望の本人との面接を設定しますので、本人と事業所の双方が不安を少しでも解消して実習に進むことができるようにします。担当者が間に入りますので、疑問があれば遠慮なく聞いてください。

4 職場実習の実施

いよいよ職場実習の実施です。

実習中は担当者の付添いや巡回訪問もあるので、作業の指示方法やコミュニケーションの取り方、休憩時間の過ごし方など、事業所と本人の「通訳」をします。「間違いを指摘してもいいか」「どんな言葉で話をすればいいか」など、戸惑った時には担当者に聞くことができます。

もちろん、何かあれば担当者に連絡を取ることができ、すぐに対応が可能です。開拓員も、担当者の巡回に同行し、実習の様子を記録します。



5 振り返り、双方が課題と解決策を検討

実習の最後には、本人、事業所の担当者、支援担当者、場合によっては本人の保護者も交えて実習期間の振り返りをします。本人と事業所双方が実施の成果を確認し、次の段階に進めるための課題やその解決策を一緒に考えます。

事業所内で作業指示をした方、同じ現場で働いた方などが、どんな感想を持ったかの把握ができると、障害や障害のある方の就労について、理解が深まるきっかけになります。



6 次の実習、雇用につなげる

実習の経験は、本人にも事業所にも有益です。本人にとっては、職場や作業が自分に合ったもののかの判断につながります。また、事業所は、障害のある方に担当してもらった部署や作業について再検討したり、一緒に働くための参考にしたりすることができます。

双方が次の実習、あるいは雇用への第一歩を踏み出せるよう、支援担当者が仲介をします。

また、雇用に至った場合も事業所に任せっきりにしません。困ったことがあれば、関係機関に相談をすることができます。



障害者雇用推進キャラクター
はーとくん

障害者職場実習先開拓事業や実際に働く障害のある方を紹介した、船橋市の広報番組「ふなばしCITY NEWS」をYouTubeでご覧いただくことができます。

船橋市ホームページから公式YouTubeを検索していただくか、下の二次元コードからご覧ください。



みんなが自分らしく輝ける社会へ
～一緒に動こう!～
(令和3年12月放送)



障害のある人が働く場を
～「はたらく」ということ～
(令和5年3月放送)



船橋市障害者雇用優良事業所

ふなばし♥あったかんぱにー

平成 26 年度にスタートした「船橋市障害者雇用優良事業所表彰 ふなばし♥あったかんぱにー」。

- ・ 障害のある方を 1 人以上雇用している
- ・ 事業所が属する法人等で法定雇用障害者数以上の障害のある方（一般就労者のみ）を雇用している
※従業員が 40 人未満（令和 6 年度）の法人では、短時間労働者も 1 人とする
- ・ 法人等が労働関係法規を遵守し公序良俗に反する事業を行っていない
- ・ 法人等が暴力団または暴力団の利益となる活動を行っていない
- ・ 過去 5 年以内にこの事業の表彰を受けていない

といった条件を満たす船橋市内の事業所（特例子会社を除く）が対象です。

昨年度からは法人の規模制限をなくし、大規模法人での取組みも対象になりました。

募集期間に応募のあった事業所には事務局が訪問調査をし、審査委員会で優良事業所「ふなばし♥あったかんぱにー」を決定し、表彰します。

「ふなばし♥あったかんぱにー」の取組みは、他の事業所の規範にしてもらうため、市ホームページや広報、リーフレットなどで広く公表します。また、名称やシンボルマークを会社案内や名刺などに使用することができ、船橋市中小企業融資制度における保証料の全額補給を受けることができます（諸条件有り）。

令和 6 年度「ふなばし♥あったかんぱにー」が決定しました

令和 6 年度には、5 事業所が「ふなばし♥あったかんぱにー」として決定し、令和 7 年 1 月 15 日に開催した「船橋市障害者雇用推進・啓発イベント『はたらく』ということ」において表彰式を行いました。



表彰式にて（左から）

株式会社東照 代表取締役 滝口雅和 様
株式会社ラダー 代表取締役 梶 真佐巳 様
船橋市副市長 杉田 修
社会福祉法人健恒会 人事係主任 鹿山美奈 様
株式会社マミーマート生鮮市場 TOP 船橋日大前店
店長 太幡 博 様
サッポロビール株式会社 千葉工場
上席執行役員工場長 榎 英登史 様

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ <評価ポイント> ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

株式会社東照

- ・ 仕事面だけではなく、生活面にも目が行き届いている。
- ・ 障害者雇用を当然のことにしていく取組みに好感が持てる。



株式会社ラダー

- ・ 障害の有無に関わらず個人の状況・特性に配慮し、誰もが働きやすい。
- ・ 協力し合える外部組織の存在を意識して取組みを続けている。



社会福祉法人健恒会

- ・ 長く定着して働くことができる体制ができている。
- ・ 職場の担当者と障害のある方のコミュニケーションがよく取れている。



株式会社マミーマート

生鮮市場 TOP 船橋日大前店

- ・ 継続して職場実習や雇用を受入れている。
- ・ 障害のある方を含め、安心して働く環境を整えている。



サッポロビール株式会社 千葉工場

- ・ 直接業務以外でも障害のある方が働く施設等に業務発注などしている。
- ・ 現在の取組みへの評価に加え、学生へのアプローチなど今後も期待できる。



これまでの「ふなばし♥あったかんぱにー」

番号	表彰年度	表彰事業所	業 務
1	H26	船橋興産株式会社	廃棄物処理
2	H26	株式会社三和製作所 京葉物流センター	学校保健用品卸
3	H26	株式会社ティーエスケー	総合改修工事
4	H27	社会福祉法人健恒会	介護事業
5	H27	レビー・ケア株式会社	介護事業
6	H27	有限会社キヅキサービスステーション	新聞販売
7	H28	株式会社鈴徳 船橋営業所	金属リサイクル
8	H28	三和商事株式会社	保健衛生用品卸
9	H28	株式会社船橋リサイクル	再生資源処理
10	H29	株式会社ホンダベルノ市川	自動車販売整備
11	H29	株式会社日本都市	交通安全工事他
12	H30	有限会社エスエスティー サポートハウスまなび	介護事業
13	H30	株式会社てらお食品	スーパーマーケット
14	H30	株式会社船橋都市サービス	駐車場等の管理・運営関係業務等
15	H30	センコーファッション物流株式会社	道路貨物運送
16	R1	株式会社 ECHIGOYA	建築資材販売
17	R1	株式会社スペースケア	福祉用具レンタル
18	R2	株式会社ヒロハマ 千葉工場	缶パーツ製造
19	R2	医療法人社団弘成会	医療・福祉
20	R3	社会福祉法人観行会 杉の子保育園	乳幼児の保育
21	R3	コントラクト株式会社	職業紹介、物流
22	R3	有限会社草の実工房すずき印刷	印刷、Web 制作
23	R3	株式会社ティーエスケー	総合改修工事業
24	R3	社会福祉法人六親会 養護老人ホーム豊寿園	高齢者介護施設運営
25	R4	株式会社ホエル	コンビニエンスストア経営
26	R4	株式会社杉本正文堂	事務用品・事務機器販売
27	R5	公益社団法人船橋市清美公社	廃棄物処理、し尿及び下水道施設等の管理
28	R5	株式会社 K. U. S. ロジスティクス・サポート	一般貨物運送業・倉庫業
29	R5	株式会社タカネ電業	電気工事業
30	R5	羽田タートルサービス株式会社 千葉支店	物流事業、空港事業



各事業所の取り組みは、
船橋市ホームページで
紹介しています
また、紹介リーフレットを
作成して配布しています



障害者雇用推進キャラクター
はーとくん

社会人への第一歩 一緒に働こう！

障害者職場開拓における職場実習・雇用受入れ事例集 No. 14

発行：令和7年5月
文責：船橋市経済部商工振興課経営労政係
船橋市湊町2-10-25
TEL：047-436-2477
FAX：047-436-2466
<https://www.city.funabashi.lg.jp/>



障害者雇用
推進キャラクター
はーとくん